



☆当事者部会「ほっこり話 2019」☆

当事者部会では毎回、障害当事者が体験したほっこりしたお話を共有しています。今年度はそんな話を皆様にも随時お届けしたいとのことで、当事者部会より情報提供です。

【6月10日（月）夜の部】

○ケース1 Hさん（電動車いす）

長野駅でエレベータに乗ろうとしたところ、中に清掃のおじさんがいて、「アップ オア ダウン？」と問いかけられ、外国人に間違えられたか？と思ったが、そのまま「ダウン プリーズ」と答えた。長野駅は清掃の方もおもてなしの心を持っているなあとほっこりした。

○ケース2 Nさん（発達障害）

東京での京成線でのこと。中国人らしき観光客が困っていたので、英語で話しかけて道案内をした。

○ケース3 Kさん（難聴）

久しぶりに地域の組長が回ってきて、組長会議に出席したとき、最初の自己紹介で自分が難聴だと伝えた。その後の話の中で、ほかの組長さんたちから、自分もいろいろ（加齢に伴う）障害を持っていると話をしていただき、自分だけでなく頑張っている方々がいることを知ってほっこりした。

○ケース4 Tさん（精神障害）

以前父の仕事を手伝う中で、当時、旅館業界のなかで「シルバースター登録」というものがあった。湯田中温泉の旅館の登録申請を手伝ったこともあったが、その制度は今のバリアフリー制度のはりりだったと思う。



【6月18日（火）昼の部】

○ケース1 Uさん（電動車いす）

長野市の福祉バスを借りて友人5人（うち車いす利用者2人）で上田で行われた女子プロゴルフのトーナメントを見に行った時のこと。車いすでの移動が難しく観覧席の端のほうでしかみることが出来なかった私たちをみて、主催者の人だと思うが、本部席のほうに案内してくれて、一番良い場所で見させてくれた。その配慮に感動した。

○ケース2 Hさん（聴覚障害）

Uさんのケースと真反対で申し訳ないが、先日全国ろうあ者大会で仙台に行った時の話。バスで「仙台城趾」にいかうとして、電光掲示板をずっと見ていたが、表示が「国際センター」という表示でずっと変わっていらなかったので大丈夫かと思っていたらいつの間にか乗り越してしまっていた。運転手にそのことを指摘したが、謝ってももらえなかった。悲しかった。

○ケース3 Hさん

精神障害の方たち向けに旅行等計画していますが、毎回旅館等に私たちの説明をして理解を得るのに非常に時間がかかっていた。しかし、社協の協賛という形にして信頼を得られるようになり、また最近是一般の方の理解も深まってきたのか、割とスムーズに話がまとまるようになってきたと感じる。その下見で、上越市の春日山城趾でのこと。山を下りてきて数百メートル先にバスが止まっていたが、間に合わないなと思って歩いていたら、運転手の方がずっと待っていてくれて乗車することが出来た。とても助かりました。

☆長野市障害ふくしネット事務局 コーディネートプラザながの の連絡先が変わります☆

7月1日から、長野市障害者相談支援センターの委託運営を行っている「CoCo」「絆の会相談室」「ほっとらいふ相談室桃の郷」の3つセンターが、相談支援体制の強化を図るため、試行的に一体化して運営することになりました。3つのセンターの専門員が、ハーモニー桃の郷3階で「長野市南部障害者相談支援センター」として業務を行います（別添パンフレット・チラシ参照）。長野市障害ふくしネット事務局（コーディネートプラザながの）も、南部障害者相談支援センターの中で事務局業務を行います。

場所やメールアドレスは今までと変わりありませんが、電話番号・FAX番号が変わります。

電話 026-286-7715 / fax 026-274-5872

年度途中の変更でご迷惑をおかけします。お間違えのないようご注意ください。

